本を選ぶ

高校図書館版

NO.52 2011年(平成23年)11月10日
http://www.las2005.com

●発行／ライブラリー・アド・サービス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL=03-3235-6168

ろん・ぽわん

原発事故からの復興

私は1989年から、福島県会津盆地南西部に位置する博士山のブナ林を守るを運動を続けてきた。森林保護の運動は、地域の生態系保護全体にまで係わり、国の未来をどうするのかという問題にまで広がる取り組みなのだ。

3月11日東北地方を襲った地震は、国内観測史上最大のM8.8であった。私は本当に怖いのは、原発事故であるとすぐに察し、案じて連絡をくれた友人知人にもそのことを伝え、「日本森林保護生態系保護ネットワーク」にも、原子炉炉心溶解のリスクを伝えた。原発事故は、実に広範囲な地域で、自然環境や産業部門など多方面に、しかも数十年間という長期間にわたって、人々を苦しめる。そのことは、チェルノブイル事故から学んでいた。私は県知事のエネルギー政策の転換を支持し、そのための自然エネルギーへの投資を提言した。

5月下旬、家庭菜園のイチゴ採りに次男家族を会津の我が家に案内したが、本当に怖いのは内部被爆であるという理由で辞退された。次男の家族は県外に自主避難し、仕事で県内に止まっている息子の往き来の負担を考えて、8か月間に住まいを三度替えている。いずれも、福島第一原発から100キロ以上離れた町であり、チェルノブイル事故で明らかになった内部被爆の安心距離にある町だ。

福島県は、復興に向け、「脱原発」を基本理念に掲げたが、原発が立地する自治体で脱原発に舵を切ったのは初めてであり、知事は「新生・福島への第一歩だ。原子力災害は続いており、除染をして安全安心な県土をつくらないといけない。脱原発を掲げ、福島を自然エネルギーや放射線医療などの研究拠点にして、産業に結び付けていく」との意気込みを述べている。

8月、第35回全国高等学校総合文化祭が、福島県内8市（一部避難指示圏を含むいわき市と南相馬市を含む）の会場で開催された。その折、いくつかの高校が避難所を訪れて吹奏楽や合唱で、癒しの働きをしたが、避難所生活を強いられている人々から、すぐには言葉で表せないような多くのことを汲みとってくれたことだろう。

9月、福島大学経済学部後藤教室の合宿で、「情報公開の大切さ」について、今回の原発事故の際も、正確な放射線拡散情報（文科省緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステムSPEEDI）が、すみやかに住民へ伝達されていけば、住民の健康・農作物や産業分野での被害状況は、変わっていたと思われるという話をした。

復興への道は、数十年の年月がかかると予想される。若い世代に「ノウモア、広島・アウシュビッツ・福島」の故郷を！

（東瀬　紘一：博士山ブナ林を守る会）

3.11 東日本大震災 写真の力を信じて

—東北の人々を励ますのに、私たちにできることは　なんだろう？「高校写真部による東日本大震災復興応援プロジェクト」ができるまで—

始まりは

埼玉栄高等学校の写真部は、３月下旬に校外で写真展を開く筈でした。ところが、３月 11 日の東日本大震災で、その企画は流れました。地震は、試験が終わって、準備に入ろうというまさにその日の出来事でした。その日から約１週間、学校は休校。写真展の準備はまったくできませんでした。また、さいたま市でも、公共施設が避難所になったり、節電などの理由で利用制限をしたりで、周囲の状況も、ゆっくりと写真を見てもらえる状況ではなく、やむなく開催を断念するに至ったのでした。出鼻を挫かれて部員たちは意気消沈し天を恨みました。

それでも春休みには活動を再開しました。ちまたでは復興支援の募金活動などが盛んにおこなわれており、写真部の生徒たちも内心自分たちも何かをしなければと思っていたそんなころ、ひさびさに横浜に撮影会にでかけることにしました。その道中のことでした。車中でたまたま開いた新聞の見開き一面に載っていたのは、避難所にいる大勢の子どもたちが「えんぴつがほしい」というようにほしいものを書いたプラカードを一斉に掲げている写真でした。そのとき、やっぱり写真って伝わってくるよなあ！　僕たちも写真のチカラでこの子たちを励まそう！と決意。こみあげてきたこの思いで、翌日の３月 27 日には井の頭公園にでかけ、くつろいでいる人々に、「東北の人たちを励ますメッセージを書いて下さい」と、大きなスケッチブックの頁に応援の言葉を書いてもらい、写真に撮りはじめました。その時の部員は、13 名ほどでした。

部活動で出かける撮影では、人を撮ることはあまりありません。撮らせてほしいと声をかけるのが得意でない生徒が多いからです。そんな生徒たちがその日を境に５月の連休すぎまで、土曜日曜を中心に、地元・埼玉県内はもとより、銀座・新宿・浅草といった東京都内へもせっせと出かけて、見ず知らずの人に声をかけ、スケッチブックの新しい頁をめくって応援の言葉を書いてもらっては、撮りつづけました。東京駅の新幹線のホームでは運転士さんも協力してくれたり、実に多くの人々の被災地への思いに触れ、部員たちも人の温かさを肌で感じていました。

この時期に写した写真は 470 枚、1100 人が写っていました。写真は、パソコンに取り込み、数枚の同じ人の写真から一番良い物をセレクトし、一枚一枚A4版のパウチにしました。全て手作業は、生徒がしました。

さて、1000 人もの人に協力していただいたこの写真で、被災地・東北の人々を応援するには、どうすればよいのだろうと考えて、浮かんだのが、２年前写真甲子園（全国高等学校写真選手権大会）で知り合って仲良くしている柴田農林高校の山下先生でした。（埼玉栄高等学校　写真部顧問　高橋朗先生　談）

高橋先生からかかってきた電話

平成 23 年３月 11 日、未曾有の大地震が東北地方を襲いました。本校のある宮城県柴田郡大河原町は、県南の内陸に位置しているため、沿岸部のような津波の影響は受けることはありませんでした。しかし、この大きな震災は、生徒たちにこれまでとは違う何かを感じさせたり、考えさせたりするものでした。

それは、私たち被災地の生徒だけの話ではありませんでした。

４月の下旬、埼玉栄高校写真部顧問の高橋先生から、私に一本の電話がかかってきました。「部員達が、被災地に向けてのメッセージ写真を撮っている。被災地に展示したいと言っている。どこか



展示できるところはないかな。とにかく“撮りたい”といって撮っていて、どこか展示するあてはあるのか、と聞いても、“そんなのはないけど、被災地に届ける”と言って撮っている。困った」という電話でした。それは、困っているのだけど、本当に困っているのではなく、部員がそういう想いで活動してくれていることが嬉しいという雰囲気の電話でした。

私も正直、突然の申し出にどうして良いのかわかりませんでした。それでも、部員の思いを何とかしたいという高橋先生の思いはよくわかりましたし、メッセージ写真を被災地に届けたいという生徒の思いも大切にしたいと考え、気がつくと「考えてみます」と答えていました。電話を切ってから、正直、「これは困った」と思いました。

この頃は、やっと生活が少しずつ元に戻ってきた頃でした。少し前に仕事で沿岸部に行ったときに見た被災地の状況を考えると「メッセージ写真を展示する」場所なんて考えられません。そして、そのメッセージをただ展示しただけで、良いのだろうか、それで何かを伝えられるのだろうか、そんな疑問も同時に出てきました。

そんな中、思いついたのが、被災地では応援メッセージに対するお礼の返事メッセージを撮影して、その写真を逆に送り届けたらいいのではないかという方法でした。早速、部員達とも話をしてみると、みんな「やりましょうよ」と何の疑問も持たずに答えてくれました。

5月下旬、埼玉栄高校から届いた写真を仙台市中心部の勾当台公園で行われた震災復興イベント「とうほく元気祭り」で展示し、そこで返事メッセージを撮影するということで、埼玉栄高校と柴田農林高校の活動は、「高校写真部による東日本大震災復興応援プロジェクト（以後　facebook）」として具体的にスタートしました。このときには、この活動を知った写真家の方々も数名、東京から仙台に駆けつけ、生徒達とともに活動してくれました。（宮城県柴田農林高等学校　写真部顧問　山下　学先生　文）

その後石巻好文館高等学校、東川高等学校（北海道）、十日町総合高等学校、津島高等学校（愛知県）、下松高等学校（山口県）、坂出高等学校（香川県）の写真部が参加、11 月上旬現在、参加する高校は 30 校近くになり、活動も日本全国に広がっています。撮影した写真も 2200 枚を超えました。この半年間に、応援・返事メッセージの写真展が、避難所で、北海道東川町で、福島県双葉町が避難している旧騎西高等学校（埼玉県）などで開かれました。会場に足を運んだ方はその場で応援又は返事メッセージの撮影に協力していただいています。

生徒達が応援するつもりが支えられていることに気づいて成長していく姿に、高橋先生も山下先生もまた驚いて感動しておられました。

いまも facebook は続いています。町でそんな高校生に出会ったら、メッセージ写真撮影に惜しみないご協力を！（ＬＡＳ探検隊）

高校写真部による東日本大震災復興応援プロジェクト：http://www.facebook.com/yell4japan/
11/28 ～ 12/4 新潟県十日町市（十日町情報館）で展示＆応援メッセージ撮影

3.11 東日本大震災 千葉県立鎌ヶ谷高等学校料理研究部の取り組み

—私たちにできる小さなことを積み重ねれば大きな支援につながる—

3.11 東日本大震災では、太平洋に面した海岸線を持つ自治体や内陸の長野県など東北地方以外でも経験したことのない大きな被害を被りました。

千葉県は、房総半島の港湾施設などを津波で失いました。県立鎌ヶ谷高等学校の料理研究部では、自分たちらしい活動で県内の被災した方へ義援金を送りたいと考えました。

料理研究部外山ちささんが、その活動について書いてくれました。

写真展とチャリティ販売

—今年三月十一日に起きた東日本大震災で被災された方々のために料理研究部は何か貢献できることはないだろうかと思い、実施することを決めたのが今回のチャリティ販売です。呼びかけをして義援金を集めるだけでも貢献できることにかわりないと思ったのですが、それでは料理研究部らしい活動にはならないと思いました。そこで自分たちで作った料理を販売し、その売り上げを義援金として寄付することにしました。

新聞やテレビなどでは震源付近の宮城県や福島県の被害が多く取り上げられていて、自分たちの住んでいる千葉県はそれほど大きく取り上げられていませんでした。しかし、今回の災害は千葉県内にもとても大きな被害をもたらし、多くの方が被災されました。そこで私たちは、あまり報道されることがなく知られていない千葉県内の被害状況を伝えようと被害を受けた場所の写真を展示し、集めた義援金は千葉県に寄附することに決めました。

六月五日（日）にイオン鎌ヶ谷店でそのチャリティ販売を行いました。手作りのクッキーやパウンドケーキ、韓国風プルコギ、フルーツジュース、三種類のおやきを販売しました。そのプルコギやジュースは材料を提供していただき、千葉県の特産品を使用しました。販売だけでなく募金箱も設置し、大人の方はもちろん小学生も自分の小遣いの中から寄附してくれました。

今回のチャリティ販売を行うことができたのは、場所や材料・写真を提供していただいたからでもあり、料理研究部を応援して下さる方々がいらっしゃるからだと思います。その中でも今回は被災された方々を少しでも助けようという気持ちがある方が来てくださったことが一番大きかったのではないかと思います。多くの方々にそのような気持ちがあることをこの目で見て、体験でき、とても温かい気持ちになりました。

一人の貢献する力がたとえ小さくても十人、百人、千人と増えていけばいくほど、その力は大きくなっていきます。料理部の部員や買いに来て下さった方々の力を合わせれば、大きな力の一部になっていると思います。そして、この力が被災地に少しでも届いてくれれば嬉しいです。

私たち高校生では直接被災地に行ってご飯を作ったり、その他にもいろいろなものを提供することは難しいです。しかし、離れた場所でも貢献することは可能です。その貢献する場所として料理研究部のチャリティー販売というものを設けることができてすごく嬉しいです。そして、この活動に影響を受けてさらに他の場所でもこのような活動が行われていたら今回の活動の意味がさらに大きくなると思います。鎌ヶ谷高校料理部でも、一回だけで終わらせてしまうのではなく、千葉県や宮城県など被害をうけた場所や人が完全に復興し終わるまで続けていけたらいいなと思います。

今回の震災で失ったものはとても大きいし、心の傷を負った人もとても多いし、その人たちに失礼かもしれませんが、今回のことで苦しい思いから学んだり気付いたりしたことを、決して無駄にはしたくありません。家族の大切さ、友達がいる

心強さ、そして東北や海岸線付近の被害が多かったところに対して内陸の人が協力してくれたり、被災者同士で励まし合う日本人の人徳の高さ。それらに気付くのは難しい事なのではないと思います。

たとえ微力であったとしてもそれはけして無力ではないので、自分にできる小さなことを一つでもいいので、多くの人にやってもらいたいと思います。いつかこの小さな思いが積み重なって完全に復興できる日がくると信じています。—

少々の補足

「千葉県内の被害を伝える写真展」と同時開催でチャリティ販売をするという企画からは、若々しさと強さをが伝わってきますし、成功裡に終了させる総合力にも惹かれました。写真の多くは、千葉県の災害本部から提供してもらったそうですが、当時はタウン誌などもたくさん読んで写真を探したそうです。

料理のチャリティー販売は、まず校内昇降口の辺りで２回開催してから、イオン鎌ヶ谷店で一日開催しました。

当時は、新入部員と三年生もいましたが、調理の練習と写真展が重なり、30 名ほどで一か月位かけて準備しました。

当日は、およそですが、パウンドケーキなどスィーツ類は 500 個、ジュース類が 300 杯、韓国風プルコギは 100 個、おやきが 100 個を用意。完売。

県内で被災した方々を支援する活動であることから千葉県の特産品が提供されました。まず、旭市から特産の「いもぶた」を。旭市は津波や液状化で、3700 戸の家が全半壊しました。また、津波で港湾施設に大きな被害をうけた九十九里市から特産のネギを、牛乳普及協会から牛乳の提供を受けました。

料理研究部は、毎年高校生の料理コンクールで、県の代表に選ばれて決勝に残り、その成果を「部活動の発表」という形で、ショッピングセンターなどで、地域の方々に見ていただいているそうです。そういう実績が今回の支援活動につながっているようです。

外山さんも言っていますが、「被災された場所や人々が完全に復興し終わるまで、それぞれが小さな思いを続けていけたらいいな」という思いに共感し、今自分に出来ることを見直そうと思いました。（ＬＡＳ探検隊）

DMかたろぐ

〝明治〟を知れば〝いま〟が見える！
最大・最新の〈明治時代〉総合歴史辞典
明治時代史大辞典
全4巻
宮地正人・佐藤能丸・櫻井良樹編
『内容案内』送呈
あらゆる分野の事項・人物約9500項目を詳細・正確に解説。近代日本の出発点の理解を深める総合歴史大辞典。
刊行開始！
●第1回配本
第1巻（あ〜こ）特価27300円（12年3月末迄）
期限後定価＝29400円
価格 税込
東京都文京区本郷七―二―八
電話〇三―三八一三―九一五一
吉川弘文館

ミネルヴァ日本評伝選
徹底的な史料読解から見える女王の実像
卑弥呼（ひみか）鬼道に事え、見る有る者少なし
古代史家 古田武彦著
通巻第100巻
いま現れる、倭国女王の姿……「邪馬壹国」はここで決まり。
448頁／2940円＊忽ち3刷
古田武彦・古代史コレクション 既刊／各2940円
古代日本に存在した王朝の盛衰を解明する
⑦よみがえる卑弥呼 日本国はいつ始まったか ＊即重版
①「邪馬台国」はなかった 解読された倭人伝の謎
②失われた九州王朝 天皇家以前の古代史
③盗まれた神話 記・紀の秘密
④邪馬壹国の論理 古代に真実を求めて
⑤ここに古代王朝ありき 邪馬一国の考古学
⑥倭人伝を徹底して読む
ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 TEL075-581-0296 ※価格税込

きみたちにおくるうた

むすめたちへの手紙

バラク・オバマ文　ローレン・ロング絵　さくまゆみこ訳

◎定価1575円（本体1500円＋税）

オバマ大統領が自分の娘たちにむけて、社会に影響を与えた13人の人物を紹介しながら、力をもつのは特別な人だけではないこと、あらゆる子どもたちは世界を変えうる大きな可能性をもつことを説く。

盲ろう者として生きて

指点字によるコミュニケーションの復活と再生

福島智著　◎定価2940円（本体2800円＋税）

幼くして視覚を、ついで聴覚を喪失し、深い失意と孤独の中に沈んでいた著者が「指点字」という手段によって他者とのコミュニケーションを回復し、再生するに至るまでを綿密にたどり直した自伝的論文。人間にとって他者とのつながりがいかに大切かが分かる本。

明石書店　〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5　http://www.akashi.co.jp
TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174　振替00100-7-24505

絵本の事典

中川素子ほか3名編　定価15750円

巨大地震・巨大津波

平田　直ほか3名著　定価2730円

日本の地誌③ 北海道

山下克彦・平川一臣編　定価2310円

知られざる動物の世界

全7巻完結　セット定価24990円

事典・辞典・ハンドブックご案内

'11総合図書目録あります。ご請求下さい。

朝倉書店　東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 ☎03-3260-7631

10代の哲学さんぽ

自分で考えよう！ 議論してみよう！

セシル・ロブラン ほか文／リオネル・コクラン ほか絵／伏見操 訳



①天才のら犬、教授といっしょに哲学する。人間ってなに？
②自由ってなに？ 人間はみんな自由って、ほんとう？
③なぜ世界には戦争があるんだろう。どうして人はあらそうの？
④動物には心があるの？ 人間と動物はどうちがうの？
⑤怪物―わたしたちのべつの顔？

【全5巻】四六判／72～136頁　ISBN978-4-265-10594-6
NDC 100 ◎揃定価 6,825円（揃本体 6,500円＋税）

岩崎書店　東京都文京区水道1-9-2 Tel 03-3812-9131
http://www.iwasakishoten.co.jp

レファレンスから選書まで幅広くご利用いただけます

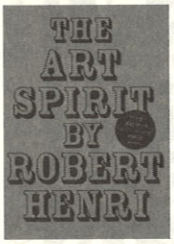
スポーツ・健康科学書総目録

最新版 2012　A5判／186頁／頒価300円（本体286円）

◆100社の2000点を紹介。巻末に掲載出版社名簿。
◆総記・健康科学・スポーツの3部門に大別。中分類19項目（辞典、資料・報告、健康科学一般、健康、保健、福祉、体育、スポーツ一般・オリンピック、陸上競技、水泳・マリンスポーツ、体操、球技、格闘技、アウトドア、登山・山岳、ダンス、冬季スポーツ、その他のスポーツ、レクリエーション・ゲーム）。さらに細分類して適書選択の便を図っています。各書目ISBNコード付。今年度版より読者対象を表示。
◆市販のスポーツ・健康科学関係雑誌一覧を掲載。
◆叢書、講座類の一括購入に便利なシリーズ索引付。
◆書店様にてお取り寄せできます。

スポーツ・保健体育書目録刊行会
〒162-8710 新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内 TEL03-3266-9521

アート・スピリット



ロバート・ヘンライ
野中邦子訳　解説＝滝本誠
2625円

魂に響く名言満載!!
80年以上にわたって
読み継がれてきた
芸術指南書のロングセラー

●傑作を生みだせ――君自身と同じくらいの傑作だ。
●芸術家として生きる人生はすばらしい。
それは、どんな人にも可能なことなのだ。
●拒絶を恐れるな。すぐれたものをもつ人間は
みな拒絶を通過してきた。

クリエイターを志す君たちへ!!

ISBN978-4-336-05410-4

国書刊行会　〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15　【税込価】
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

懐かしいアニメ作品から19世紀の世界史を読み解く

アニメで読む世界史

藤川隆男 編

●1,575円（税込）●A5判●240頁
●ISBN 978-4-634-64054-2

第1章 レ・ミゼラブル 少女コゼット
第2章 フランダースの犬
第3章 家なき子レミ、ペリーヌ物語
第4章 アルプスの少女ハイジ
第5章 小公女セーラ
第6章 母をたずねて三千里
第7章 家族ロビンソン漂流記
第8章 トム・ソーヤーの冒険
第9章 トラップ一家物語

好評発売中!! 山川MOOK 安野光雅 キャンバスが絵になるとき

山川出版社　〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13 TEL 03-3293-8131
FAX 03-3292-2994